

日蓮大聖人御書全集

しじょうきんごどのごへんじ

四糸金吾殿御返事

ようかごしよ

（八日御書）

新版
1630

しじようきんごどのごへんじ　ようかごしよ

四条金吾殿御返事（八日御書）

こうあん

ねん

弘安5年（82）

がつ

にち

1月7日

さい

61歳

しじようきんご

まんげつ

満月のごとくなるもちい二十、かんろのごとくなる

餅

にじゅう

甘露

清酒ひと筒

た

そうら

お

せいす一つ、給び候い畢わんぬ。

はる

おんよろこ

つき

満

潮

差

春のはじめの御悦びは、月のみつるがごとく、しおのさ

くさ

囲

あめ

降

おぼ

すがごとく、草のかこむがごとく、雨のふるがごとしと思し

めすべし。

ようか

おのおの

おんちち

しゃかぶつ

う

たま

そもそも八日は、各々の御父・釈迦仏の生まれさせ給い

そうら

ひ

か

ひ

さんじゅうに

不思議

いち

いっさい

候いし日なり。彼の日に三十二のふしぎあり。一には一切

そうもく

はな

実生

に

だいち

いつさい

たから湧

出

の草木に花さきみなる。二には大地より一切の宝わきいず。

さん

いつさい

田 島

あめ降

みず湧

出

し

三には一切のでんぱたに雨ふらずして水わきいず。四には

夜

変

昼

ご

さんせんせかい

なげ

声

よるへんじてひるのごとし。五には三千世界に歎きのこえ

きちずい

そう

そうら

なし。かくのごとく、吉瑞の相のみにて候いし。これより

このかたいま

にせんにひやくさんじゅうよねん

あいだ

きちじ

ようか

已来今にいたるまで二千二百三十余年が間、吉事には八日

使

たま

そうろう

をつかい給い候なり。

にほんこく

みなしやかぶつ

す

たま

そうろう

しかるに、日本国、皆釈迦仏を捨てさせ給いて候に、

かこ

ぜんこん

ほけきよう

しやかぶつ

ごしんじん

いかなる過去の善根にてや、法華経と釈迦仏とを御信心あ

おのおの 集

たま

ようか

供

養 もう

たも

りて、各々あつまらせ給いて八日をくよう申させ給うのみ

さんちゆう　にちれん　け　香　送　そうら　尊
ならず、山中の日蓮に華こうをおくらせ候やらん。とうと

し、とうとし。　恐々謹言。

きようきようきんげん

しょうがつなのか

正月七日

ひとびとごへんじ

人々御返事

にちれん　かおう
日蓮　花押